

看護学生における保健師の認識に関する基礎的調査

—A 大学の Web 調査結果から—

A Basic Survey on Nursing Students' Perceptions of Public Health Nurse
—Results of the Web Survey at A-College—

柴生田英香 古舘美喜子 吉岡幸子

要旨

目的：看護学生の保健師に対する認識や保健師養成課程への意向の実態を明らかにし、保健師教育を発展させるための基礎資料とする。

方法：1・2 年次学生 113 名と、保健師養成課程選抜試験受験者以外の 3・4 年次学生 100 名の 213 名を対象に、Web を用いた無記名自記式アンケート調査を実施した。基本的属性、保健師の認識や業務の関心、保健師課程を選択しなかった理由を尋ね、記述統計、*t* 検定を実施した。

結果：保健師養成課程を選択しなかった理由は、勉強が大変そう、課題が多く対応できなさそうなど、修学上の負担が多かった。保健師業務に興味関心が向かないことを理由に保健師養成課程を選択しなかった者は、高齢者保健・介護保険や地域包括ケアシステム構築・推進業務など、関係法規や制度などに関連が深い業務への関心が特に低かった。

考察：看護学生は、看護師教育を通じて予防の必要性や予防に携わる保健師への魅力を感じている。看護の多領域と協働し、看護学生が興味関心を示す児童虐待や疾病予防業務などについて、ケースメソッドやシミュレーションなどを取り込むことにより、保健師への関心が高まることが期待できる。

キーワード：保健師、看護学生、保健師基礎教育、保健師養成課程

I はじめに

大学における看護系人材の養成は 1952 年の看護系大学の誕生から、常に社会の医療・看護ニーズに対応できる質の高い保健師、助産師、看護師、そして看護学の研究者、教育者を確実かつ効果的に養成することを目標としてきた。看護系大学においては、教員が看護の質の向上を目指して連綿と教育に関する研究を積み重ねながら、看護師等の基礎となる教育内容を 4 年間の学士課程の中で体系的に教授し、

質の高い看護系人材の供給に大きく貢献してきた（文部科学省, 2011）。

1992 年「看護師等の人材確保の促進に関する法律」の施行以降、看護系大学が急増し、保健師教育においては、248 課程で養成されている（文部科学省, 2023）。一方、保健師活動も多様で複雑になり、地域包括ケアシステムの推進、特定健康診査・特定保健指導制度の導入、がん対策、自殺対策、肝炎対策、虐待防止対策等に関する法整備等、保健師の活動をめぐる状況は大きく変化し、新たな健康課題へのニ

ーズに応じた保健活動の展開が求められており、各自治体において保健師の必要性が認められている（加藤ら, 2018）。2020 年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正が行われ、保健師学校養成所では、教育内容の充実を図るため総単位数は「28 単位」から 3 単位増の「31 単位」となり（文部科学省, 2020）、保健師教育はより質の高い教育が求められる時代になってきた。

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大は保健師業務に多大な影響を与え、保健所の体制整備は喫緊の課題となった。政府は地方財政措置を講じ、保健所において感染症対応業務に従事する保健師を令和 3 年度から 2 年間で約 900 人増員、令和 5 年度にさらに 450 人増員することとしたが、保健師の人材確保・定着は引き続き重要な課題である（日本看護協会, 2023）。

2022 年 5 月 1 日現在の状況をみると、地方自治体に勤務する常勤保健師は合計 38,003 人で前年度に比べ 2.4%増加している。また、採用者数は合計 2,802 人であり、前年度に比べ 14.5%増加している（厚生労働省, 2022）。その一方で、地方自治体では保健師採用・確保に対する課題として、「計画的に採用・確保できておらず、年代が偏っている」（47.0%）と挙げており、特に市町村では、「募集人数に対し十分な応募者数が確保できない」（47.7%）ことを課題と考える者が多い（日本看護協会, 2023）といった調査結果が示されている。地方自治体の保健師数は増加しているものの、保健師国家試験の合格者数は毎年 7,000 人前後いる（厚生労働省, 2023）ことを考えれば、需要と供給のバランスが見合っていないことがわかる。また、「小中高生、看護学生に保健師の仕事が知られていない」（日本看護協会, 2020）ことや、「保健師という職業が、何が楽しいのかわからない」という発言をする学生がいる（山本, 2012）こと、「保健師は役場の人」「（役場で）座って机に向かっている人」などの意見が聞

かれる（村中, 2012）など、看護学生にとって保健師の認識は十分でない様子が伺え、保健師人材を育成・排出する看護系大学の責任は非常に大きい。現在、保健師養成課程は看護系大学での全員必修または選択制、1 年制の専攻科、2 年間の大学院のいずれかで行われている。2022 年度現在保健師養成課程の選択制を採用している大学は、保健師養成課程を有する 243 校のうち、222 校であり 91.3%を占める（文部科学省, 2023）。その選択時期として最も多いのは 2 年次終了時で 31.0%であり、次いで 2 年次後期で 18.0%と、半数近くが 2 年次までに選抜している状況である。

A 県内においても、保健師の人材育成は大きな課題であり、40 箇所ある市町村では保健師数が不足している自治体もあり、在職保健師が疲弊しつつ保健師活動を行っている状況であり、保健師の充足が喫緊の課題である。一方看護系大学において、保健師として就職を考えている学生は、1 割程度（風間ら, 2013・白木ら, 2010・中北ら, 2015）であり、A 大学においても保健師養成課程を希望する学生は定員に満たない状況であるが、その理由は把握できておらず、保健師に対する認識の実態も把握できていない。

Ⅱ 研究目的

本研究の目的は、看護学生の保健師に対する認識や保健師養成課程への意向の実態を明らかにすることであり、保健師教育を発展させるための基礎資料とすることである。本研究により保健師の人材育成および確保につながる基礎教育への示唆を得ることで、社会の医療・看護ニーズに対応できる質の高い保健師を養成することにつながり、質の高い保健師の供給に大きく貢献できる意義ある研究である。

Ⅲ 研究方法

1. 研究デザイン

Web を用いた無記名自記式アンケート調査とした。

2. 研究対象者

2 年次終了時に保健師選択制を採用している A 大学看護学科に在籍し、保健師養成課程を選択する前段階にある 1 年次 2 年次学生 113 名と、保健師養成課程選抜試験受験者以外の 3 年次 4 年次学生 100 名の 213 名を対象とした。

3. 調査期間

2023 年 5 月から 7 月まで

4. 調査方法

無記名自記式 Web アンケート調査 (Google Forms®使用)

5. 調査内容

1) 基本的属性

学年、性別、卒業後の進路希望、家族親族内の看護職の有無を尋ねた。

2) 保健師の認識

保健師の認識、保健師を知ったきっかけについて尋ねた。

3) 保健師業務の関心

「保健師の活動基盤に関する基礎調査」(日本看護協会, 2022) 調査項目を参考に、母子保健業務、生活習慣病予防業務、高齢者保健・介護予防業務、精神保健業務、地域包括ケアシステム構築・推進業務、感染症業務、虐待・DV 防止対策業務、児童福祉業務、障がい者福祉業務、難病対策業務、保健医療福祉計画策定業務に対する関心の度合いについて、全く関心がない、あまり関心がない、どちらともいえない、

やや関心がある、非常に関心があるの 5 段階で尋ねた。

4) 保健師養成課程を選択しなかった理由

保健師養成課程選抜試験を受けなかった 3・4 年次のみに、その理由を尋ねた。

6. 分析方法

項目ごとに記述統計を算出し、看護学生の保健師に対する認識や、保健師養成課程への意向の実態を把握した。次に、保健師養成課程を選択しなかった理由と保健師業務の関心について t 検定を行い、保健師の人材確保につながる基礎教育について研究者間で検討した。なお統計解析には、SPSS Statistics 29 を用いた。

Ⅳ 倫理的配慮

研究対象者に対し、本研究の説明会を開催し、研究目的および実施方法、調査は無記名であること、自由意志による参加であること、研究不参加が看護学生の成績に影響しないこと、研究成果の公表について文書および口頭で説明した。Web 調査票内に研究参加同意の有無の欄を設け、同意の有無を確認した。本研究は八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部研究倫理委員会の承認を得て実施した (承認番号 23-08)。

Ⅴ 結果

1. 回答者の属性

1) 回答者数

対象者数 213 名のうち、回答数 167 名 (回答率 78.4%)、うち有効回答数は 165 名 (有効回答率 98.8%) であった。学年別では、1 年次 45 名のうち回答数 44 名 (回答率 97.8%)、2 年

次 68 名のうち回答数 42 名（回答率 61.8%）、3 年次 51 名のうち回答数 47 名（うち 2 名無効回答）（回答率 92.2%）、4 年次 49 名のうち回答数 34 名（回答率 69.4%）であった。

2) 基本属性

回答者の学年は、1 年次 44 人（26.7%）、2 年次 42 人（25.5%）、3 年次 45 人（27.3%）、4 年次 34 人（20.6%）であった。性別では、男性 18 人（10.9%）、女性 146 人（88.5%）、答えたくない 1 人（0.6%）であった。

2. 保健師養成課程を選択しなかった理由と保健師への関心

1) 保健師の認識

「保健師の名称を知っており、業務内容や勤務場所を理解している」と回答した者は、保健師養成課程選択前の 1・2 年次では 3 割弱、保健師養成課程選択後の 3・4 年次では 4～5 割であった。しかし「保健師の名称を知っているが、具体的な業務内容や勤務場所はわからない」と答えた者は、すべての学年において 5 割程度を占めていた。（図 1）

保健師を知ったきっかけでは、最も多いのが「大学の授業で学んだまたは教員から話を聞いた」で 66 人であり、3・4 年次の回答が多

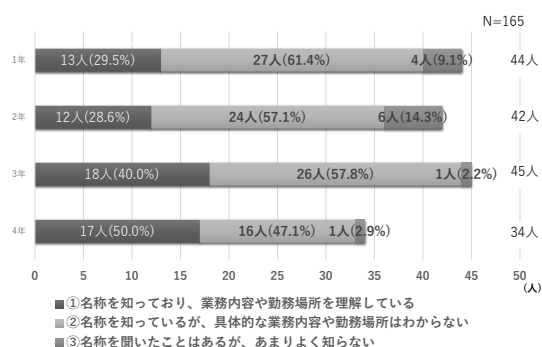


図1 看護学生の保健師の認識

かった。次いで「小・中・高の授業で学んだまたは教員から話を聞いた」で 35 人であり、1 年次の回答が最も多かった。（図 2）

2) 保健師業務の関心

それぞれの保健師業務について「やや関心がある」「非常に関心がある」と答えた者の割合が高かったものは、「母子保健業務」（69.7%）であり、最も低かったのは「保健医療福祉計画策定業務」であった。学年別に見ると、1 年次では「児童福祉業務」（75.0%）が最も高く、2 年次では「母子保健業務」（69.0%）、3 年次では「母子保健業務」と「児童福祉業務」（いずれも 68.9%）、4 年次では「虐待・DV 対応業務」（73.5%）が最も高かった。最も低い業務は全学年とも「保健医療福祉計画策定業務」であった。

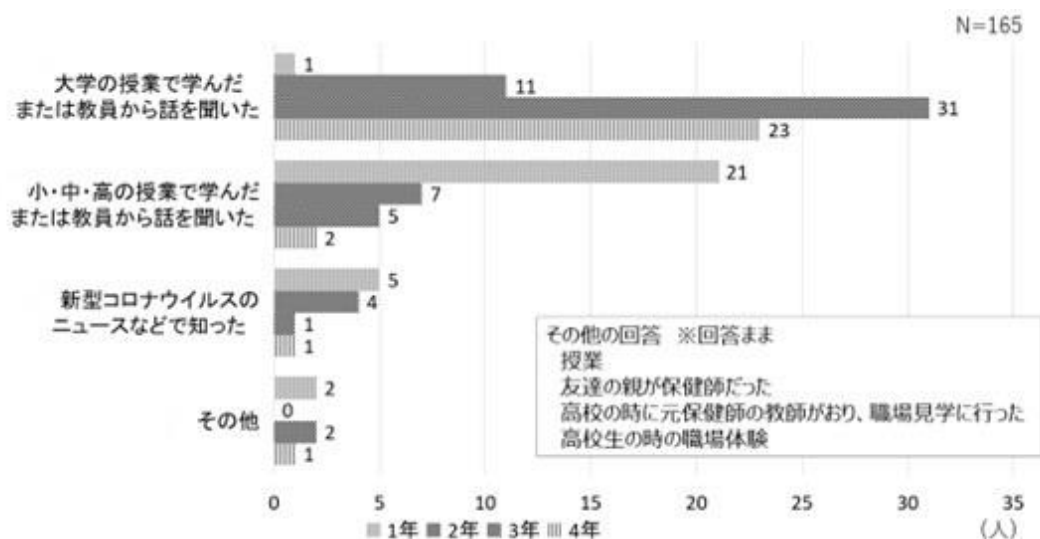


図2 看護学生が保健師を知ったきっかけ（複数回答・回答の多かった上位3項目のみ抜粋）

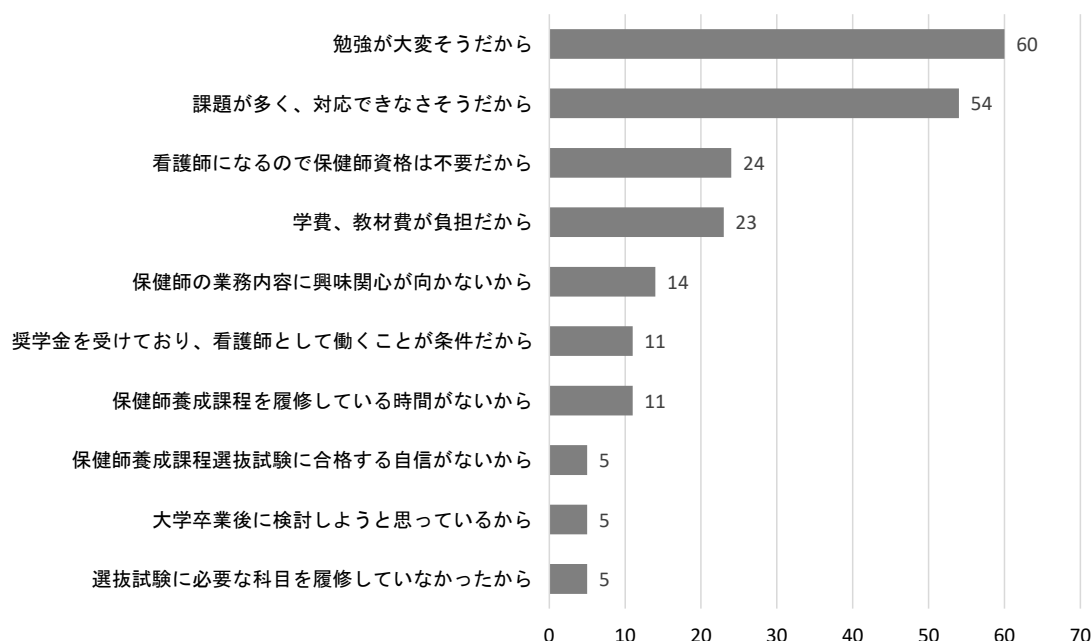


図3 保健師養成課程を選択しなかった理由（3・4年次のみ）

3) 保健師養成課程を選択しなかった理由と保健師業務の関心について（3年次・4年次のみ）

保健師養成課程を選択しなかった理由のうち最も多かったのは「勉強が大変そうだから」（75.9%）であり、次いで「課題が多く、対応できなさそうだから」（68.4%）、「看護師になるので保健師資格は不要だから」（30.4%）であった。（図3）

保健師養成課程を選択しなかった理由と、保健師業務の関心について t 検定を行った結果、「勉強が大変」と回答した者は回答しなかった者と比べて「虐待・DV 防止対策業務」（ $p=0.025$ ）、「児童福祉業務」（ $p=0.021$ ）への関心が有意に高かった。また「看護師になるので保健師資格は不要だから」と回答した者は回答しなかった者と比べて「障がい福祉業務」（ $p=0.022$ ）、「難病対策業務」（ $p=0.043$ ）への関心が有意に高かった。一方、「保健師の業務内容に興味関心が向かないから」と回答した者は回答しなかった者と比べて「高齢者保健・介護保険業務」（ $p=0.004$ ）、「地域包括ケアシステム構築・推進業務」（ $p=0.025$ ）が有意に低か

った。（表1）

VI 考察

1. 看護学生の保健師の認識と保健師人材育成に資する教育活動

A大学看護学科学生は、3・4年次では大学入学後に、1・2年次では小・中・高校時代に保健師について学んでいる傾向が伺えた。しかしながら、保健師という職業は認識していても、名称を知っている程度でその業務内容や勤務場所はわからないと答える看護学生が半数以上いた。磯村ら（2020）の調査によると、公衆衛生看護学実習を履修した看護学生でも、64.7%が保健師の活動をイメージしにくいと答えている。さらに、公衆衛生看護学実習前の事前学習で保健師をイメージできていた者は1.4%にとどまっているとの結果が得られており、看護学生にとって、保健師業務の理解が難しいことがわかる。

看護学生が保健師資格取得を目指す背景に

表1 保健師養成課程を選択しなかった理由と保健師業務の関心との関連 (3・4 年次のみ)

| | 勉強が大変 | | | 課題が大変 | | | 資格不要 | | | 学費が負担 | | | 保健師に興味なし | | | 看護業務の奨学金 | | | 時間が取れない | | | 選抜試験自信なし | | | 卒業後に考える | | | 単位が足りない | | |
|------------------|-------|-----------|-------|-------|-----------|-------|------|-----------|-------|-------|-----------|-------|----------|-----------|-------|----------|-----------|-------|---------|-----------|-------|----------|-----------|-------|---------|-----------|-------|---------|-----------|-------|
| | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ | n | mean±SD | ρ |
| 母子保健業務 | 19 | 3.43±1.21 | 0.339 | 25 | 3.37±1.18 | 0.133 | 55 | 3.60±1.08 | 0.784 | 56 | 3.72±1.02 | 0.144 | 65 | 3.67±1.02 | 0.308 | 68 | 3.54±1.05 | 0.106 | 74 | 3.59±1.04 | 0.709 | 74 | 3.59±1.06 | 0.401 | 74 | 3.58±1.05 | 0.199 | 74 | 3.62±1.02 | 0.970 |
| | 60 | 3.68±0.98 | | 54 | 3.74±0.96 | | 24 | 3.67±0.96 | | 23 | 3.35±1.07 | | 14 | 3.36±1.15 | | 11 | 4.09±0.94 | | 5 | 4.20±0.84 | | 5 | 4.00±0.71 | | 5 | 4.20±0.84 | | 5 | 3.60±1.52 | |
| 生活習慣病 | 19 | 3.14±1.06 | 0.115 | 25 | 3.30±1.03 | 0.431 | 55 | 3.37±0.92 | 0.547 | 56 | 3.30±0.92 | 0.066 | 65 | 3.45±0.82 | 0.122 | 68 | 3.34±0.85 | 0.100 | 74 | 3.42±0.90 | 0.594 | 74 | 3.42±0.90 | 0.594 | 74 | 3.39±0.91 | 0.621 | 74 | 3.39±0.91 | 0.621 |
| | 60 | 3.50±0.81 | | 54 | 3.46±0.82 | | 24 | 3.50±0.83 | | 23 | 3.70±0.76 | | 14 | 3.07±1.14 | | 11 | 3.81±1.08 | | 5 | 3.20±0.84 | | 5 | 3.20±0.84 | | 5 | 3.60±0.55 | | 5 | 3.60±0.55 | |
| 予防業務 | 19 | 3.10±0.89 | 0.287 | 25 | 3.30±0.99 | 0.934 | 55 | 3.30±0.91 | 0.834 | 56 | 3.22±0.90 | 0.366 | 65 | 3.42±0.87 | 0.004 | 68 | 3.25±0.91 | 0.520 | 74 | 3.30±0.94 | 0.488 | 74 | 3.30±0.94 | 0.488 | 74 | 3.26±0.94 | 0.440 | 74 | 3.25±0.95 | 0.206 |
| | 60 | 3.35±0.95 | | 54 | 3.28±0.92 | | 24 | 3.25±1.03 | | 23 | 3.43±1.04 | | 14 | 2.64±1.01 | | 11 | 3.45±1.13 | | 5 | 3.00±1.00 | | 5 | 3.00±1.00 | | 5 | 3.60±0.89 | | 5 | 3.80±0.45 | |
| 精神保健業務 | 19 | 3.67±1.02 | 0.602 | 25 | 3.52±1.01 | 0.755 | 55 | 3.51±1.02 | 0.415 | 56 | 3.47±0.96 | 0.144 | 65 | 3.63±0.97 | 0.248 | 68 | 3.54±1.02 | 0.573 | 74 | 3.61±0.95 | 0.191 | 74 | 3.61±0.95 | 0.191 | 74 | 3.58±1.00 | 0.701 | 74 | 3.52±1.00 | 0.054 |
| | 60 | 3.53±1.00 | | 54 | 3.59±1.00 | | 24 | 3.71±0.95 | | 23 | 3.83±1.07 | | 14 | 3.29±1.14 | | 11 | 3.73±0.90 | | 5 | 3.00±1.58 | | 5 | 3.00±1.58 | | 5 | 3.40±1.14 | | 5 | 4.40±0.55 | |
| 地域包括ケアアシス | 19 | 3.19±0.98 | 0.858 | 25 | 3.37±0.88 | 0.316 | 55 | 3.18±0.97 | 0.491 | 56 | 3.16±0.91 | 0.309 | 65 | 3.33±0.91 | 0.025 | 68 | 3.21±0.95 | 0.849 | 74 | 3.24±0.92 | 0.587 | 74 | 3.24±0.92 | 0.587 | 74 | 3.21±0.96 | 0.864 | 74 | 3.17±0.94 | 0.054 |
| | 60 | 3.23±0.93 | | 54 | 3.15±0.96 | | 24 | 3.33±0.87 | | 23 | 3.39±0.99 | | 14 | 2.71±0.91 | | 11 | 3.27±0.90 | | 5 | 3.00±1.22 | | 5 | 3.00±1.22 | | 5 | 3.40±0.55 | | 5 | 4.00±0.00 | |
| 感染症業務 | 19 | 3.00±0.95 | 0.596 | 25 | 3.19±0.96 | 0.579 | 55 | 3.05±0.99 | 0.518 | 56 | 3.00±0.94 | 0.152 | 65 | 3.15±0.99 | 0.315 | 68 | 3.06±0.99 | 0.339 | 74 | 3.09±0.95 | 0.814 | 74 | 3.09±0.95 | 0.814 | 74 | 3.05±0.99 | 0.100 | 74 | 3.03±0.97 | 0.033 |
| | 60 | 3.13±1.00 | | 54 | 3.06±1.00 | | 24 | 3.21±0.98 | | 23 | 3.35±1.07 | | 14 | 2.86±0.95 | | 11 | 3.36±0.92 | | 5 | 3.20±1.48 | | 5 | 3.20±1.48 | | 5 | 3.80±0.45 | | 5 | 4.00±0.71 | |
| 虐待・DV防止 対策業務 | 19 | 3.43±0.93 | 0.025 | 25 | 3.67±0.92 | 0.401 | 55 | 3.68±0.85 | 0.122 | 56 | 3.72±0.85 | 0.363 | 65 | 3.85±0.78 | 0.086 | 68 | 3.71±0.85 | 0.085 | 74 | 3.78±0.84 | 0.952 | 74 | 3.78±0.84 | 0.952 | 74 | 3.79±0.85 | 0.627 | 74 | 3.75±0.85 | 0.246 |
| | 60 | 3.90±0.77 | | 54 | 3.83±0.80 | | 24 | 4.00±0.78 | | 23 | 3.92±0.79 | | 14 | 3.43±1.02 | | 11 | 4.18±0.60 | | 5 | 3.80±0.84 | | 5 | 3.80±0.84 | | 5 | 3.60±0.55 | | 5 | 4.20±0.45 | |
| 児童福祉業務 | 19 | 3.38±0.92 | 0.021 | 25 | 3.63±0.93 | 0.400 | 55 | 3.68±0.85 | 0.350 | 56 | 3.78±0.82 | 0.550 | 65 | 3.79±0.81 | 0.237 | 68 | 3.65±0.83 | 0.022 | 74 | 3.75±0.85 | 0.699 | 74 | 3.75±0.85 | 0.699 | 74 | 3.74±0.85 | 0.871 | 74 | 3.75±0.85 | 0.699 |
| | 60 | 3.87±0.77 | | 54 | 3.80±0.79 | | 24 | 3.88±0.80 | | 23 | 3.65±0.88 | | 14 | 3.50±0.94 | | 11 | 4.27±0.65 | | 5 | 3.60±0.55 | | 5 | 3.60±0.55 | | 5 | 3.80±0.45 | | 5 | 3.60±0.55 | |
| 障がい福祉業務 | 19 | 3.14±0.96 | 0.502 | 25 | 3.44±0.89 | 0.280 | 55 | 3.11±1.03 | 0.022 | 56 | 3.17±1.01 | 0.163 | 65 | 3.34±1.01 | 0.165 | 68 | 3.24±1.03 | 0.523 | 74 | 3.29±0.98 | 0.539 | 74 | 3.29±0.98 | 0.539 | 74 | 3.26±1.04 | 0.772 | 74 | 3.25±1.01 | 0.458 |
| | 60 | 3.32±1.03 | | 54 | 3.19±1.07 | | 24 | 3.67±0.87 | | 23 | 3.52±0.99 | | 14 | 2.93±1.00 | | 11 | 3.45±0.93 | | 5 | 3.00±1.58 | | 5 | 3.00±1.58 | | 5 | 3.40±0.55 | | 5 | 3.60±1.14 | |
| 難病対策業務 | 19 | 3.29±1.01 | 0.649 | 25 | 3.33±1.07 | 0.812 | 55 | 3.23±0.96 | 0.043 | 56 | 3.24±0.96 | 0.060 | 65 | 3.42±0.97 | 0.343 | 68 | 3.35±0.98 | 0.761 | 74 | 3.37±0.95 | 0.945 | 74 | 3.37±0.95 | 0.945 | 74 | 3.36±1.00 | 0.592 | 74 | 3.32±0.98 | 0.050 |
| | 60 | 3.40±0.98 | | 54 | 3.39±0.94 | | 24 | 3.71±0.95 | | 23 | 3.70±0.97 | | 14 | 3.14±1.03 | | 11 | 3.45±1.04 | | 5 | 3.40±1.52 | | 5 | 3.40±1.52 | | 5 | 3.60±0.55 | | 5 | 4.20±0.45 | |
| 保健医療福祉計画 策定業務 | 19 | 2.86±1.01 | 0.774 | 25 | 3.04±1.09 | 0.139 | 55 | 2.82±1.00 | 0.763 | 56 | 2.76±1.01 | 0.536 | 65 | 2.85±1.02 | 0.348 | 68 | 2.79±0.99 | 0.708 | 74 | 2.81±1.02 | 0.645 | 74 | 2.81±1.02 | 0.645 | 74 | 2.78±1.03 | 0.365 | 74 | 2.82±1.02 | 0.645 |
| | 60 | 2.78±1.01 | | 54 | 2.69±0.95 | | 24 | 2.75±1.03 | | 23 | 2.92±1.00 | | 14 | 2.57±0.94 | | 11 | 2.91±1.14 | | 5 | 2.60±0.89 | | 5 | 2.60±0.89 | | 5 | 3.20±0.45 | | 5 | 2.60±0.89 | |

※各列とも、上段は表記の理由項目を選択しなかった群、下段は表記の理由項目を選択した群である。

ρ<0.05

は、大学入学前からの社会経済的側面への関心や、予防や保健への興味、行政への興味がある（松本ら, 2022）。中学、高校と大学との連携による職業的教育の実施や、大学のオープンキャンパスなどを活用した体験授業など、キャリア教育の一環として、大学入学前から保健師を認識する機会を増やしていくことが必要と考える。

2. 看護学生の保健師業務への関心と保健師人材育成に資する看護師・保健師基礎教育の検討

保健師養成課程を選択しなかった看護学生の多くは、その理由を「勉強が大変そうだから」「課題が多く、対応できなさそうだから」と答えていた。少子高齢化の進展や地域医療構想の実現、地域包括ケアシステム構築の推進、ICT の急速な導入などの社会変化に対応するため、看護師基礎教育のカリキュラム内容は変化しており、2022 年度から総単位数が 97 単位から 102 単位と増えている（厚生労働省, 2019）。看護学生は過密なスケジュールの中で幅広い内容を学修しており、保健師養成課程を履修することで、さらに学業が過密となることに負担感や懸念を示しているものと想像される。全学年において最も関心が低かった業務は「保健医療福祉計画策定業務」であった。保健師養成課程を選択しなかった理由に「保健師の業務内容に興味関心がないから」と答えた看護学生は、「高齢者保健・介護保険業務」「地域包括ケアシステム構築・推進業務」の関心が特に低いとの結果が得られている。業務は法律や規則、制度などが関係している上に、個別支援業務のように対人関係が見えにくい業務である。看護学生は患者のケアなど対人業務を学んでいる折、関係法規や直接的な対人業務ではない業務のイメージを掴みにくいいため、興味関心が持てないものと推察する。「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」（文部科学省, 2017）の学修目標の構成要素

「社会と看護学」の一項目として「社会の動向と保健・医療・福祉制度」には、看護を取り巻く社会の動向や特性について学ぶ、健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉制度について学ぶことが記されている。看護の専門性を発揮して看護の機能を充実させていくためには、疾病構造、保健医療福祉制度、保険制度を理解する能力も必要である。看護実践能力の向上とともに、保健師に魅力を感じてもらうには、看護師教育の工夫が必要であると考えられる。田中（2024）は、看護教育における関係法規の教授について、法学の専門家や保健医療福祉行政の専門家が教授することが多いだろうが、臨床現場では法的・倫理的な問題で看護職者が戸惑うことやジレンマに陥る場面は少なくなく、様々な健康問題を抱えている人々を支援するにあたって現在の制度では解決できないような課題にぶつかることもあり、看護教員が臨床の視点から関係法規を学生に説明することが重要だと述べている。保健師教育の力を活かし、看護学生に関係法規や制度などについて、看護の場面や臨床の視点に繋がるような教授を行うなどが考えられる。

保健師養成課程を選択しなかった看護学生が、保健師業務に全く関心がないかと言えば、決してそうではないことも明らかになった。保健師養成課程を選択しなかった理由に「勉強が大変そうだから」と答えた看護学生は、「虐待・DV 防止対策業務」や「児童福祉業務」などに大きな関心を示している。これらの業務は、保健師養成課程を選択する前の 1・2 年次でも興味関心は高いとの結果が得られている。松本ら（2022）の調査では、看護学生が保健師養成課程選抜試験受験の背景の一つに「公衆衛生看護の講義を受けて、予防に働きかける職種として保健師を知った」「基礎看護学実習をとおして予防の必要性を感じた」など、看護教育を通じて、予防の必要性や予防に携わる保健師への魅力を感じている。看護の多領域と協働し、看護学生が興味関心を示す

児童虐待や疾病予防業務などについて、ケースメソッドやシミュレーションなどを取り込むなどの方策もあると考える。

Ⅶ 結論

A 大学看護学科に在籍する保健師養成課程を選択していない1・2年次、および保健師養成課程を選択しなかった3・4年次学生を対象とした全数調査により、保健師に対する認識や保健師養成課程への意向の実態について知見が得られた。

- 1) 保健師養成課程を選択していない看護学生の保健師の認識は、高学年でも具体的な業務内容を知っている者が半数程度であった。
- 2) 保健師を知ったきっかけは、小・中・高校の授業等で学んだ、または大学の授業で学んだ者が多かった。
- 3) 保健師業務の関心は、すべての学年において児童虐待・DV 防止対策、児童福祉業務などが高かった。
- 4) 保健師養成課程を選択しなかった理由は、勉強が大変そう、課題が多く対応できなさそうなど、修学上の負担が多かった。
- 5) 保健師業務に興味関心が向かないことを理由に保健師養成課程を選択しなかった者は、高齢者保健・介護保険や地域包括ケアシステム構築・推進業務など、関係法規や制度などと関連が深い業務への関心が特に低かった。

本研究の限界は、保健師選択制を実施する一大学のみに限られた調査であり、調査を実施した A 大学のカリキュラムの影響を受けていることから、他の保健師養成学校と同じような認識や意向が得られるとは断定できない。保健師の認識や保健師を知ったきっかけについては、大学に入学して間もない1年次と、数年修学した3・4年次では状況が異なるため、

特に高学年における思い出しバイアスが生じた可能性がある。保健師業務の関心については、そもそも保健師の名称は知っていても業務内容などはわからないと回答した者が半数以上いたことから、業務内容を誤認して回答した可能性も否定できない。また、保健師業務の関心の度合いは調査したものの、どのような教授方法や教授時期を望んでいるかなど、学生のニーズについては明らかにできなかった。今後、より具体的な保健師業務への関心や、教授方法、教授時期に対する学生のニーズを調査することで、保健師の人材育成に資する基礎教育の充実が図れるものと考えられる。

謝辞

本研究にご協力いただいた A 大学看護学生の皆様に心より感謝申し上げます。

研究助成情報

本研究において開示すべき利益相反はない。なお本研究は、2023 年度学校法人光星学院イノベーションプログラム（基金）研究等補助金の助成を受けて行ったものである。

文献

- 磯村聡子, 守田孝恵, 斎藤美矢子ら (2020) : 公衆衛生看護学実習による学習効果と課題, 山口医学, 69(1), 57-66
- 風間順子, 鈴木雅子, 倉林しのぶ (2013) : 看護学生における「保健師」に関する認識について, 高崎健康福祉大学紀要, (12), 65-72
- 加藤典子, 山口道子, 田中志保 (2018) : 【今改めて保健師の専門性とは-ジェネラリストというスペシャリティ-】公衆衛生看護における保健師の現状と求められる能力, 保健医療科学, 67(4), 413-421
- 厚生労働省 (2019) : 看護基礎教育検討会報告

- 書 Retrieved from <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf> (2024 年 10 月 25 日)
- 厚生労働省 (2022) : 令和 4 年度保健師活動領域調査 (領域調査) 結果の概況 Retrieved from https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/dl/ryouikichousa_r04_1.pdf (2024 年 10 月 25 日)
- 松本千晴, 大河内彩子 (2022) : 保健師教育課程選択制の大学における学生の保健師志望の実態－A 大学における保健師今日いう過程選抜試験受験の背景－, 日本地域看護学会誌, 25(2), 40-47
- 文部科学省 (2011) : 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 最終報告 Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf (2024 年 10 月 25 日)
- 文部科学省 (2011) : 「看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～ Retrieved from https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf (2024 年 10 月 28 日)
- 令和 2 年 10 月 30 日 2 文科高第 666 号/医政発 1030 第 15 号 文部科学省初等中等教育局長・文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について」
- 文部科学省 (2023) : 文部学大臣指定 (認定) 医療関係技術者養成学校一覧 Retrieved from https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/1353401.html (2024 年 10 月 25 日)
- 文部科学省 (2023) : 保健師教育にかかる実態調査令和 4 年度版文部科学省高等教育局医学教育課調べ Retrieved from https://www.mext.go.jp/content/20231017-mxt_igaku-000006023-4.pdf (2024 年 10 月 25 日)
- 村中峰子 (2012) : 看護師と保健師の協働を視野に入れた看護基礎教育を考える「保健師」とは何かを改めて考える, 看護教育, 53(5), 376-382
- 中北裕子, 多次淳一郎, 松山新葵ら (2015) : 看護学生の保健師教育に対する意識について－三重県立看護大学 4 年生の意識調査から－, 三重県立大学紀要, 18, 48-52
- 日本看護協会 (2020) : 自治体保健師の人材確保ガイド Retrieved from https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/senkuteki/2020/securing_phn_resources_guide.pdf (2024 年 10 月 25 日)
- 日本看護協会 (2023) : 保健師の活動基盤に関する基礎調査報告書 Retrieved from http://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/senkuteki/2023/hokenshi_katsudokiban.pdf (2024 年 10 月 25 日)
- 白木裕子, 佐藤都也子, 片田裕子ら (2010) : 保健師教育に関する看護系大学生および高校生の意向, 茨城キリスト教大学看護学部紀要, 28(1), 45-48
- 田中幸子 (2024) : 看護教員が看護学生に「関係法規」を教授する, 看護教育のための情報サイト「NurSHARE」 Retrieved from <http://www.nurshare.jp/article/detail/10638> (2024 年 10 月 25 日)
- 山本真由子 (2012) : 「看護師が行う地域看護活動」の視点から見た必要な教育内容, 看護教育, 53(5), 370-375

執筆者紹介 (所属)

柴生田 英香 八戸学院大学 看護学科 講師
古舘 美喜子 八戸学院大学 看護学科 講師
吉岡 幸子 八戸学院大学 看護学科 教授